

別紙様式6 学校教育目標	かしこく やさしく たくましい子供の育成	経営理念	ミッション：確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく、主体的に取り組む児童の育成 ビジョン：「学んでよかった」「来させてよかった」と信頼され期待される学校づくり ○ワクワク感・満足感・達成感が味わえる授業を実践する学校 ○組織として機能する学校 ○お互いの思いを語り合えるコミュニケーション豊かな（働きやすい）学校
-----------------	----------------------	------	---

評価計画					自己評価					学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方策		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							10月	2月						
確かな学力	1	主体的・対話的で深い学びの実現	学習意欲の向上	・国語科・算数科を中心に、児童が考える楽しさを実感できる授業づくりに取り組む。	・TTタイムの実施回数	35	17回	33回	94%	3	・TTタイムの実施回数としては、年間計画通りに実施できた。教師の振り返りによると、日々の授業づくりの相談ができたことや生活目標に関する取組を交流できたことなど具体的な指導について学べたことが成長につながった。課題は、学年部という枠組みで交流は進んだのだが、それ以外の教員集団で交流を進めることができなかったことである。様々な意見から学びが深められるように今後、研修方法を検討、改善していく。	A	・TTタイムの活用は有効であると感じた。 ・先生間のコミュニケーションは大切なので今後も継続してほしい。 ・他学年部との関わりが薄いように感じられる。	TTタイムを次年度も継続する。講座型TTタイム(ちょっとした小ネタ、授業が盛り上がる技、ICT)教室訪問型TTタイム(環境)など、多様な方法を試していく。
			基礎学力の定着	・学力検査の分析に基づき、課題を焦点化して取り組む。 ・学力が十分身につけていない児童への支援を充実させる。(放課後ルンルン教室など)	・国語科・算数科の全単元末テストの平均点	80点以上	国語 82.2点 算数 80.2点	国語 83.2点 算数 80.4点	100%	3	単元末テストの結果を見ると、国語1点向上、算数0.2点微増である。ただし、算数科は知識84.1点、思考力76.7点となっている。習った知識や技能をもとに見方・考え方を働かせて課題を解決する力が十分につけられていないことが課題である。また、苦手意識をもち、学習に課題がある児童についても、放課後ルンルン教室や日常の個別指導で、学力向上には至っていない現状がある。	B	・算数科の思考力判断力表現力が課題。 ・思考力の個人差が課題。個別指導を継続してほしい。 ・低学年での取組が重要になるのではないが。	基礎基本の知識・技能を確実に高める取り組みとして、授業の最初に知識・技能を確実に高める学習を取り入れる。
豊かな心	2	自他を尊重する豊かな心の育成	規範意識の育成	・児童及び教職員が合言葉や生活上の意識を共有する。(「黒瀬スタンダード」「中小あいさつ」「きこなし」) ・特別活動を活性化させ、児童の行動意欲(自主的・主体的)を高める。 ・講師を招聘し生徒指導に関する職員研修を行う。	・第三者アンケート肯定的評価「本校の児童は地域の方にあいさつをしている」	80%以上	100%	86%	108%	4	・達成率は、目標(80%)に対し、達成値(86%)で、108%となった。しかし、2月アンケートで、「何%の児童が、地域の方にあいさつをしていると実感されていますか?」と問うと、平均66%にとどまった。この結果や地域の方のお話、教職員の実感からも、まだまだたくさん児童が十分に気持ちのよい声であいさつできていないことが分かる。『子供の姿は大人の姿』であること念頭に、今後も学校でできるあいさつの取組を継続して進める必要があると考える。 【今後の取組案】 ○地域であいさつをすることが「感謝の気持ちを伝える一つの手段」であることの指導 ○子供が主体的にあいさつを推進する運動(中学校生徒会と児童会が共に行う「あいさつ運動」) ○教職員の工夫した声掛け(あいさつしない児童への声のかけ方、研修において共有) ○「あいさつは心の扉」「あいさつは防犯につながる」等のあいさつの価値の共有 ○「声を出すこと」自体の指導の工夫(返事の「はい」、姿勢指導、「いただきます」「ごちそうさま」、職員室に入る際等)	B	・感謝の気持ちを口にできる児童を見かけるようになった。 ・地域でのあいさつが課題。 ・放課後の児童の様子を見ると、声を出すことにおっくうになっていると感じる。	教師自身がまずあいさつをする。「あいさつ週間」等の児童会行事や地域の方の「あいさつ評価アンケート」の結果公開の仕方の工夫等で、児童自らが「あいさつしよう」と思い、実践できるようにする。あいさつを返さない児童がいた時の教師の声掛けを、教育心理や特別支援の視点から工夫する。宿題を出す、返事をする、『きこなし』を整える、ろうかを歩く、はきものをそろえる、時間を守る、姿勢を正すといった生活の「当たり前」を当たり前前に指導することを通して、あいさつもできるようにする。
				・児童生活アンケート肯定的評価80%以上「学校は楽しいですか」	80%以上	91%	90%	113%	4	・令和5年度での同様の児童アンケートでは、「学校が楽しい」肯定的回答は、75%だった(令和6年度は同様アンケートなし)。今年度、前期から肯定的回答が90%を超え、年間を通して90%の肯定的回答を得たことは、左記の取組に一定の成果があったと考える。一方、10%の児童が否定的に答えている。個別に見ていくと、生活リズムや生活態度に課題が見えてくる。これらの児童には、担任、生徒指導部、管理職が情報共有し、SSWやSCなどの専門職等も活用しながら対応していく。また、来年度は、目標値もさらに上げ、取組を進めていきたい。	A	先生自身が「学校が楽しい」と思えば、児童がその影響を受けるのではないかと思う。とても大事な項目だと思う。	特別活動など、児童が「自分たちがやってみたい」「自分たちが役に立っている」「やらなければならない」活動をもつようにする。『為すことによって学ぶ』特別活動の原理に則った活動を行う。「できた」「分かった」「がんばった」と思える学習活動を行う。	
健やかな体	3	調和のとれた運動能力の育成	自分の体力について、主体的に高めようとする態度の育成	・記録更新の喜びや運動の楽しさを味わわせる体育科授業を実践する。 ・外遊びを積極的に行うことができる環境をつくる。(週1回のロング昼休憩等)	・新体力テスト昨年度を上回る項目	6以上	男子 8 女子 5	握力 15.75→17.60	108.3% 握力 111.7%	3	・評価項目では昨年度を上回る項目が6以上となっていて、女子が上回ることはできなかった。しかし、校内の昨年度の結果との比較であり、全国平均では上回る項目がある。 ・全国平均及び県平均と比べると、握力と長座体前屈が男女とも低い値にある。そのため、握力に焦点を当て、取り組んだ。毎朝のグーパー運動を続けることで、結果全国平均及び県平均を上回ることができた。	B	・外遊び・室内遊びともに、いい面悪い面がある。保護者の理解が必要。 ・握力向上のため「グーパー運動」「縄跳び」を継続してほしい。	中黒瀬小学校児童の体力の課題である「握力」について、取り組んでいく。具体的には、「グーパー運動」を年間を通して取り組む計画を立て実施していく。
				・児童アンケート肯定評価「体育の授業が楽しい」	85%以上	92.10%	95.20%	103%	3	・「体育の授業が楽しい」というアンケートでは、95.2%の児童が肯定的評価をしている。その取組として、1体育の時間に楽しさを味わわせる授業改善を行った。2持久走大会では、全体での順位だけでなく、個人の目標を立てて自分の伸びを感じる取組を行った。	B	・「楽しい」とは具体的に何かを示してほしい。 ・ゲームなどで走り回る機会を増やしてほしい。 ・保護者への理解と協力が必要である。 ・「楽しさ」を感じる授業「自分の伸び」を実感する取組について感謝している。	ロング昼休憩やみんなで遊ぶデーで、内容を工夫し、体を動かす楽しさや、友達と活動する楽しさを増やしていく。持久走を今年度改善をしたことを引き続き実施し、個人の目標を持って取り組めるようにする。	
信頼される学校	4	学校・地域・保護者が一体となって子供を育てる学校づくり	コミュニティ・スクールの推進	・CS連絡会を実施し、体験活動の綿密な打ち合わせを行う。 ・学校の取組を積極的に情報発信(ホームページ、学校だより、CSだより等)する。	1CS推進員、担当によるCS連絡会の実施	1平均月2回	1月2回	1月2回	100%	3	・本年度は、スポーツフェスティバルに企業や大学の指導者も招聘し、児童の学びが深まった。また、中黒瀬ふれあい農業祭(学習発表会と同時開催)に5年生児童が全員参加でき、多様な活動で地域の方々に関わりながら貢献できた。4年生のコスモス園訪問・交流は、児童の自主的な取組になった。昨年比で、担当職員が早めにCS連絡会で提案をし、地域学校協働活動推進員と打ち合わせをしたことで、保護者の参加や活動内容が充実した。	B	・体験学習を増やしてほしい。 ・自治協と連携して継続実施してほしい。 ・1～3年生の地域交流をいかにするかを考えてほしい。 ・CS連絡会があることがよい。	CS連絡会が関わる地域学校協働活動の児童満足度や感想を参考に参照にする。
			2学校だより、ホームページ等での発信	2月1回	2月1回	2月1回	100%	3	・毎月の学校だよりやCSだより、ホームページで地域学校協働活動や学習の様子を紹介した。保護者から「ホームページはカラー写真で確認できるので、楽しみに見ている」「学年通信等のページが更新されていない学年があり、ぜひ新たな情報を発信してほしい」との意見があった。本校で育てたい資質・能力に触れながら、活動の意義や児童の様子を伝える学年だよりや学年のページが増えた。	B	・いいニュースを流してほしい。 ・発信回数を増やしてほしい。	学年通信のホームページ掲載を確実に実行。外部講師との連携窓口としてCS推進員に入ってもらおう。		
			働き方改革の推進	・学年部を有効活用する。(情報共有、交換授業) ・放課後時間の確保をする。(会議の時間短縮、業務改善の推進等)	勤務時間外在校時間が80時間以上の教職員の割合	0%	0%	0%	100%	3	・対象教職員の全員が月80時間を超えず、各教職員の時間外勤務の平均(4～1月)は約20時間弱～59時間弱であった。木曜日を全校5時間授業とするなど各学年授業時数を昨年より6～25時間減らし、放課後時間を確保できた。	A	・時間内にできるようにして持ち帰りを減らすことが大切である。 ・教職員の健康面のためには家では仕事をしないで済むようにしたいところだ。 ・教職員にとっても学校が楽しくなるように工夫してほしい。	「勤務時間外在校時間が45時間以内の教職員の割合100%」を「目標達成のための方策」に入れる。日課表の見直しや会議の精選により、放課後時間を確保する。「働きやすい」「働きやすさ」についての教師アンケートを評価項目とし、肯定的評価10%アップを目標値に設定する。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価
 4...目標を上回って達成 3...目標どおりに達成
 2...目標をやや下回って達成 1...目標をかなり下回って達成



■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)
 A...とても適切である B...概ね適切である
 C...あまり適切でない D...全く適切でない